

毎週日曜発行
2025 1/26

こども新聞
週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



1995年1月17日午前5時46分、多くの人がまだ布団に入っている時間帯に阪神・淡路大震災が発生しました。震源地は淡路島北部で最大震度7を記録し、犠牲者は6434人に上りました。犠牲者の多くは建物の倒壊によるもので、特に1981年以前の古い耐震基準で建てられた木造住宅が多く崩れました。亡くなった方の多くは高齢者で、古いアパート

トで暮らす若者も亡くなっています。大地震を引き起こしたのは、都市の直下を走る活断層でした。地震の直後、淡路島北部では断層の一部が10キロにわたる長さで地表に現れました。直下型地震の強い揺れは、道路や橋などの近代都市を支えるインフラも破壊しました。高速道路の橋脚が600メートル以上

にわたって崩れ落ちる光景は、多くの人の記憶に深く刻まれています。この震災をきっかけに耐震基準の一部が見直され、2000年以降に造られた建物はさらに地震に強い構造となりました。阪神・淡路大震災では火災も多く発生しました。消防などは消火活動に追われ、建物の倒壊現場に救助隊がすみやかに

に到着できなかったため、多くの場所で住民同士が助け合いました。地震で崩れた建物から生き延びた人々のうち、消防や警察、自衛隊などの機関による救出は約2割(8000人)で、約8割(2万7000人)は家族や近隣の住民に救助されました。このような共助が行われなければ、さらに多くの犠牲者が出ていたことでしょう。

震災の教訓として、地域社会の連帯と協力の重要性が改めて認識されました。普段の予防や準備の段階から住民同士でネットワークを作り、災害に関する知識やリスクを共有することが重要です。家族で防災訓練に参加して身近な人とつながり、助け合う方法を学ぶなど、今できることから始めましょう。そうした取り組みが多くの命を救うことにつながります。

阪神・淡路大震災の教訓

地域の連帯と協力が重要



はやさかアドバイザーの

学ぼう防災

22

きょうのテーマ

阪神・淡路大震災から

教訓学び、互いに助け合おう

30年

阪神・淡路大震災では住民同士が助け合い、消火や救助活動を行ったよ



地域の防災訓練に参加し、身近な人と助け合う方法を身に付けよう



イラスト・多田健一郎

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

今週の注目ニュース

◇29日(水) 昭和基地開設記念日

1957年のこの日、日本の第1次南極地域観測隊が南極の東オングル島に昭和基地を開設しました。名前は当時の元号に由来。日本の観測基地は4カ所あり、オーロラの観測や動植物の調査などに当たっています。

きょうの紙面

- 2面 ニコ☆プチ
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 くわしく学べる! こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー